

北羽新報

発行所 北羽新報社
〒016-0891 能代市西通町3-2
0185-54-3150
東京支社 047-322-0500
仙台支社 022-273-0955
秋田支社 018-823-4640
二ツ井支社 0185-73-4036
二ツ井支社 0185-54-3155
二ツ井支社 0185-54-3158

がん治療に地域連携

山本組合
総合病院

「クリリテイカルパス」導入

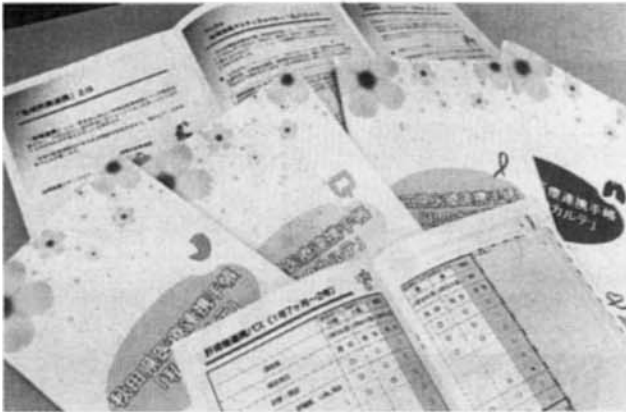
今月から かかりつけ医と情報共有

県の地域がん診療連携拠点病院に指定されている能代市落合の山本組合総合病院(近田龍一郎院長)は、「5大がん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん)」について、医療機関が変わっても切れ目のない治療が受けられる統一した治療計画書「地域連携クリリテイカルパス」を7月から導入する。専門医が地域のかかりつけ医と治療経過を共有することで、がん患者の退院後、どこでも標準的な専門医療と、きめ細やかな診療が受けられる態勢づくりが狙い。同病院では現在、能代山本を中心とした32医療機関との連携が見込まれている。

がん対策基本法に基づいて、質の高いがん医療が受けられるよう、全国的に「がん対策推進本計画」が19年に閣議決定されたことを受け、県は20年に「がん対策推進計画」を策定。「どこにいても質の高いがん医療が受けられるよう」に、がん拠点病院と地域の開業医が同じ医療方針で安いかつ質の高い医療を提供する県統一の「地域連携クリリテイカルパス」を作成した。がん患者はこれまで手術を受けた病院で退院後の診療や定期検査などを受けていたが、地域連携パスの導入により、地域のかかりつけ医が簡易な検査や投薬など日常の診療を担当。入院治療を受けた病院は大きな検査や再発治療などを担い、副作用の発生や急変時に備える。

山本組合総合病院では7月から地域連携パスの導入を開始する。現在、能代山本をはじめ、北秋田市や鹿角市、青森県深浦町など32の医療機関との連携が見込まれ、30日には地域の開業医を対象にした説明会を開く。

地域連携パスを用いることで主治医が複数になり、患者の側に立ったきめ細やかな診療が受けられるメリットがあるほか、大きな病院ならではの診療に費やす待ち時間も削減され、遠方から通



県統一で使用される地域連携パス。患者には「私のカルテ」が配布され、専門医がかかりつけ医と治療経過を共有する

う患者にとっては経済的負担も軽減される。

患者には退院後、治療内容や退院後の生活方法、通院スケジュール、検査予定などが書かれた患者用の地域連携パス「私のカルテ」が手渡される。治療病院とかかりつけ医の連絡に用いられ、患者自身も治療過程などが一目で分かるようになっていく。

同病院では「これまで患者の情報共有はほとんどできなかったが、地域連携パスによって風通しが良くなり、みんなが同じような医療を同じように受けられる。病院と

かかりつけ医との結びつきが密になることは患者にとってもメリットになる」と話している。